

ごみ減量取組み住民説明会を開催します。

可燃ごみの減量努力が処理費用の負担に反映します。

家庭から出される燃えるごみは、茅野市・富士見町・原村の3市町村で共同運営する諏訪南清掃センターで焼却処理されています。この焼却処理にかかる費用は現在3市町村の分担金で賄われており、この負担割合が「均等割20%、実績割80%」に22年度から適用されます。

住民一人ひとりの減量努力が反映されます。可燃ごみ減量の取組みについて住民説明会を下記のとおり開催します。都合のつく日に、最寄りの会場へお出かけください。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

日程表

期 日	会 場	時 間
2月15日(月)	柳沢公民館	午後 7時
2月17日(水)	縦の木荘	午後 7時
2月19日(金)	柏木公民館	午後 7時
2月21日(日)	原村役場 3階講堂	午前 10時
2月24日(水)	中新田稲転研修施設	午後 7時
2月26日(金)	原村役場 3階講堂	午後 7時

燃えるごみのごみ質は、約半分が水分です。この内、生ごみは約40%です。
生ごみが減れば可燃ごみは減量できます。“ずく”を出してごみを減らしましょう。

説明会は、生ごみ堆肥化取組みについて説明します。

食卓から土へ

生ごみは貴重な資源、土の中の微生物と力を合わせて、生ごみを活用して、豊かな土と緑を再生しよう。それは生ごみの減量につながります。

土の中の生き物たち

生ごみが消える???

土に住む微生物たちは、有機物をエサとして生きています。私たちの“食べ物”は微生物にとって最高のごちそうです。おいしい生ごみは微生物にどんどん分解されて土と見分けがつかなくなります…これが堆肥です。

★ 微生物のごちそうは（分解できるもの）

食べ残し 野菜くず 落ち葉 枯れ草
時間のかかるものは、鶏肉等の骨

★ 微生物が分解できないものは

輪ゴム 金属類 ビニールテープ プラスチック類



ダンボールコンポスト



電動生ごみ処理機

“生ごみ”は燃やさないで“土”にかえし有効に活用しましょう。

お問合せ先 建設水道課 環境係 電話 79-7933



はら村傾聴ボランティアグループ「のぞみ」

設立 2009年8月
会員数 29名(2009/12現在)
連絡先 原村社会福祉協議会 電話79-7228

お話相手の出前いたします

人がこの世で生きていくためには、話をする相手が必要です。おしゃべりすることで気持ちがすっきりしたり、ほっとしたりするものです。設立して6ヶ月ですが、村内や近隣地域の施設、個人のお宅などで活動しており、好評をいただいています。

傾聴ボランティアとは

「よもやまの話をして、楽しい時間を過ごすための話し相手」という意味です。〔はら村傾聴ボランティアグループ のぞみ〕は、長野県や原村などの傾聴ボランティア養成講座を受講した修了生で設立したグループです。傾聴のご要望のあるところにお伺いして、お話を聴かせていただきます。

傾聴ボランティアが伺う場所

家で一人で過ごす時間が多い高齢の方、長く入院されている方、老人施設、家族の介護をされていて気晴らしの外出ができない方などの家に伺います。

傾聴ボランティアの約束

お話の内容はもちろん、お名前も決して他言しません。
(守秘義務の厳守) 安心してお話いただけます。
お食事・移動・車いす操作のお手伝いなどは、原則としてできません。
ボランティアですからもちろん無料です。



出前のご注文をお待ちしています。

※地域福祉センター窓口には詳しい資料が置いてあります。



●表紙写真/保健福祉課で行なっている男の料理教室。今年で6年目を迎え、年々参加者が増加しているそうです。この日は、なます、あられ汁、さんまの蒲焼きの3品を作っていました。参加者の皆さんは、栄養士の指導のもと、真剣に取り組んでいました。

CONTENTS

■はら村傾聴ボランティアグループ「のぞみ」	2
■ごみ減量取組み住民説明会を開催します	3
■春の全国火災予防運動	4
■村づくり通信	5
■くらしの情報	6-9
■行政情報	10-11
■保健・福祉の掲示板	12
■くらしのガイド	13
■はらむらとびっくす	14-15
■はじめまして1才6ヶ月です	16

春の全国火災予防運動

平成21年度全国統一防火標語

『消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子』

期間 ● 3月1日(月)～3月7日(日)

春先は空気が乾燥し、風の強い日が多くなることから火災が発生しやすくなります。次のことを守り、火災を起こさないよう注意しましょう。

- 風の強い時はたき火をしない。又、火が完全に消えたことを確認してから、その場を離れる。
- ストープには燃えやすいものを近づけない。
- 寝たばこ・たばこの投げ捨てはしない。
- ガスコンロなどのそばを離れる時は、必ず火を消す。
- 電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。



古くなった消火器の取り扱いについて

昨年9月15日及び16日に大阪市並びに福岡県行橋市において、古くなった消火器を操作したことにより、消火器が破裂し負傷したと見られる事故が相次いで発生しました。消火器は設置場所により、耐用年数内でも腐食などの劣化が進みます。もう一度、ご自宅の消火器を確認してください。

- 消火器（特に底面）がサビていたり、変形していませんか。
- 消火器が風雨にさらされる場所や湿潤な場所に直に置いてありませんか。
- 不用になった消火器は、決して放射・解体せず購入した販売店、消火器専門業者、製造メーカーへご相談ください。

各事業所などで、訓練、研修会を実施するにあたり、消防職員の派遣を希望される場合は、事前に訓練実施計画書を原消防署まで提出して下さい。



問い合わせ先
原消防署 予防係
☎79-2442 (直通)

「むらづくり」は、『人づくり』から 「原村人づくり事業」

「ハード」から「ハート」のむらづくりへ

原村では、住んでみたい村・住んでよかった村・住み続けた村であるために施設や整備などの「ハード」に重きをおいた村づくりから、基盤整備をはかりつつも、身近な住民サービスに重点を置いた「ハート」あふれるむらづくり行政と、住民とのパートナーシップによるむらづくりへと進められています。

「むらづくり」には、従前の形を変えるための先進的な知識や技術、感覚を持つ「人づくり」が不可欠です。

原村を愛する人、地域づくりに智慧や力を出す人、地域で子どもを育てる人、地域でモノづくりにチャレンジする人など、長期的な視野に立ち、「むらづくりを行なう人」を育成支援する「人づくり」に取り組んでいくことが必要です。

村では、「人づくり事業」を実施して人材の育成支援を行なっています。

「人づくり事業」とは
国外又は国内において、各産業・文化等の先進地の研修視察等を行なうことにより、その知識と技術の見聞を広め、村内産業の発展と国際化を図り、国際感覚豊かな人材の育成を図ることを目的として、村内の農業者、事業者及び企業事業所等に雇用されている人に補助をします。また、海外友好都市プケコへの交流を地域の国際化に活かそうとする研修に対しても補助をします。

●補助率及び限度額
・対象経費の2分の1以内
・国外20万円、県外3万円、県内1万円を限度（この事業は、1人1回のみの申請になります）

村では、村づくりのための人づくりを積極的に推進していきたいと考えています。「人づくり事業」に関する要望、利用を希望される方は、村づくり係までお気軽にご相談ください。

《中学生海外ホームステイ》
人づくり事業では、中学生海外ホームステイの補助も行なっています。国際感覚養成のために、毎年原中学校の生徒（2年生）をニュージーランド・プケコへ地区に毎年3月に派遣しています。

今年度は、男子4名、女子5名の派遣生徒が3月19日～30日までの実施に向け、英会話やプケコへ中学校で発表するダンスなどの事前研修に励んでいます。

＜ニュージーランドプケコへの交流＞
中学生海外ホームステイで訪れるニュージーランド・プケコへ地区と原村は、平成14年に相互友好都市を締結しています。毎年原村のホームステイ派遣生徒を受け入れていただいています。

このような交流をきっかけに、17年度よりプケコへ中学校からキミ先生が原中学校AET教師に就任しています。

平成22年9月には、プケコへ中学校生徒や関係者が原村にホームステイする予定です。国際交流の良い機会ですので、来村の際にはぜひ多くの方にホームステイ受け入れを希望していただきたいと思ひます。

今まで「人づくり事業」を活用して、次のような研修が行なわれました。

【フランスの市場や農地】
農業経営に結びつけるため、農業国フランスで、パリの市場の様子や置いてある野菜、農地などを視察しました。

【中国の野菜市場や工場】
農業経営者や事業者などで視察団を編成し、野菜の市場価格や工業団地を視察しました。

【埼玉県小川町の生ゴミ資源化施設を】
生ゴミを分解してメタンガスと液肥を作っているNPO団体や施設を視察しました。

【ゴミの減量化や資源化は、各自自治体、企業、団体や住民がそれぞれに地球規模で考えなくてはならない課題となっています。】

■青年海外協力隊・シニア海外ボランティア
独立行政法人国際協力機構（JICA）では、開発途上国の国づくりをお手伝いするため、20歳～39歳以下の方を「青年海外協力隊員」として、40歳から69歳以下の方を「シニア海外ボランティア」として募集しています。国際社会に貢献しつつ、自分の力を試してみたい方はぜひご応募ください。

募集は、毎年4月上旬から5月下旬頃となっています。詳しくは、JICAホームページをご覧ください。

★弘沢区出身の日達真美さんが青年海外協力隊員として、1月から2年間、ニジェールに感染症対策（マラリア予防啓発等）のスタッフとして派遣されました。これまでも数名の協力隊員が村内から派遣されています。

村づくり通信

村づくり戦略推進室
村づくり係からのお知らせ

TEL.79-7922 (直通)
E-Mail:muradukuri@vill.hara.nagano.jp

